

# **昭和60年度 発掘調査略報**

**茨木市教育委員会**

## はしがき

豊かな自然に恵まれた茨木市には、地下に埋もれた文化財が数多く残されています。これらの文化財は、郷土茨木の歴史を具体的に示してくれる資料として、原始・古代から今日にいたるまでの人びとの生活経緯を証明する貴重な文化遺産であります。

調和のとれた文化都市をめざし、茨木の歴史と風土を背景にして、豊かな文化の継承・育成と文化的視点にたったまちづくりを推進しようとする基には、これらの貴重な文化財の保存が、大きな役割を担うものであると考えております。

こうした意味からも、全ての市民が健康で働き、学び、生きがいを見つけられる郷土茨木の実現を目指すとともに、文化財を保護し後世に伝えることも我々の使命であり、責務であると考えています。

本書の刊行にあたり、調査関係者をはじめとし、多くのかたがたのご好意、ご指導とご援助に対し、心から感謝いたしますとともに、今後とも多くの皆様がたのご協力により、文化財の保護・活用に万全の意を注いでまいる所存であります。

茨木市教育委員会

教育長 中平敏

## 例　　言

1. 本書は、昭和60年度中に茨木市内において実施した発掘調査の略報であります。
2. 発掘調査は、茨木市教育委員会が各々の開発者からの依頼により、茨木市教育委員会事務局文化財調査員宮脇薰（嘱託員）を担当者として実施した。
3. 発掘調査にあたっては、開発者である大阪北生活協同組合・新大阪造機株式会社・本田技研工業株式会社・長沢カツエ・荒神康雄・西之辻嘉文・古川義清の各位にご協力を得たことを感謝いたします。
4. 調査の実施と概要の作成にあたっては、宮脇薰・大戸井和江・片之坂節子・桑原紀子・國分佐知子・田中良子・因千枝子・土岐朱美・松井喜志子が従事した。
5. 本文の執筆は宮脇薰が担当した。

## 目 次

|           |   |
|-----------|---|
| 宿久庄遺跡（I）  | 1 |
| 宿久庄遺跡（II） | 2 |
| 春日遺跡（I）   | 3 |
| 春日遺跡（II）  | 4 |
| 郡遺跡（I）    | 5 |
| 郡遺跡（II）   | 6 |
| 東奈良遺跡     | 7 |

## 図 版

|           |               |
|-----------|---------------|
| 宿久庄遺跡（I）  | 図版 I・VII      |
| 宿久庄遺跡（II） | 図版 II         |
| 春日遺跡（I）   | 図版 I・VII      |
| 春日遺跡（II）  | 図版 III        |
| 郡遺跡（I）    | 図版 VI・IX      |
| 郡遺跡（II）   | 図版 V・X        |
| 東奈良遺跡     | 図版 VI・XI～XIII |



## 宿久庄遺跡（I）

1. 遺跡名 宿久庄遺跡
2. 調査地 茨木市藤の里一  
丁目191他
3. 調査年月日 昭和60年11月1  
日～11月10日
4. 調査面積 50m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、大阪北生活協

同組合社倉庫建設および浄化槽の建設を計画し、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が宿久庄遺跡に隣接しているため、当該地の試掘調査を実施したところ、中世の瓦器・土師器等の土器片が出土したことから、発掘調査を行った。

### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、上から盛土・耕土・床土の下に試掘調査で検出した瓦器・土師器を含む暗褐色礫層の包含層を検出した。その下層に約30cmの無遺物層があり、その下に弥生式土器を含む淡褐色土層の包含層があり、その下は黄色礫層の地山となっている。

遺構としては、中世の包含層に伴う遺構を検出することは出来なかったが、弥生時代の包含層の下、すなわち地山面において幅3m、深さ70cm～80cmの調査区を東西に横断する溝-Iを検出した。

溝-I内より出土したのは、おそらくカシと考えられる自然木を検出したのみで明確な時期は不明である。



## 宿久庄遺跡（Ⅱ）

1. 遺跡名 宿久庄遺跡
2. 調査地 茨木市藤の里二  
丁目13-44
3. 調査年月日 昭和60年12月9  
日～12月28日
4. 調査面積 80m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、新大阪造機株式会社が既設建物に増築を計画し、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が周知の宿久庄遺跡内に位置しているため、発掘調査を行った。



### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、上から盛土・耕土・床上の下に約30cmの黄白色粘土層が堆積しており、その下に黒色粘土層が南へいくにしたがい厚く堆積している。その下層に黄色礫層の地山が北から南へ傾斜しながら続いている。

黄色礫層面における遺構は検出されなかったが、厚く堆積した黒色粘土層中より若干の遺物が出土した。しかし、いずれも磨滅が著しく、時代判定できる遺物の出土はなかった。

## 春日遺跡（I）

1. 遺跡名 春日遺跡
2. 調査地 苺木市春日二丁目181-1他
3. 調査年月日 昭和60年8月1日～8月20日
4. 調査面積 100m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、本田技研工業株式会社が既設建物に増築を計画し、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が春日遺跡内に位置しているため発掘調査を行ったが、調査地区の北西部約 $\frac{1}{4}$ がすでに攪乱されていた。



### 造構・遺物

調査地の基本層位は、上から盛土・耕土・床土があり、その下に約10cmの暗褐色土層の包含層、その下が黄色粘土層の地山となっている。

包含層からは、埴輪片を含む須恵器・土師器等の古墳時代の遺物から奈良時代の須恵器・土師器等の土器片が含まれていた。

造構は、調査地区をほぼ南北に継断するかたちで幅1m25cm～1m35cm、深さ70cm～75cmの溝—Iを検出したのみであった。

遺物は溝内より奈良時代の須恵器・土師器片が出土している。

調査地区は郡遺跡の南限に隣接している地域にあり、郡遺跡とも関連する一つの資料を提供したのである。

## 春日遺跡（II）

1. 遺跡名 春日遺跡
2. 調査地 茨木市上穂東町  
190-1他
3. 調査年月日 昭和60年12月4  
日～12月25日
4. 調査面積 262m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、長沢カツエ氏が共同住宅建設を計画され、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が春日遺跡内に位置しているため発掘調査を行った。

### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、耕土・床土の下に厚さ約10cmの暗褐色土層の包含層、その下が黄色粘土層の地山である。

包含層からは、埴輪片・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器等の遺物が出土している。

遺構は、西北から東南に流れる幅3m、深さ70cm～75cmの溝—Iを検出した。溝内の出土遺物から12世紀頃の溝と考えられる。

溝-IIは、北から南に流れる幅70cm、深さ20cm～25cmであり、出土遺物から溝—Iと同時期頃と考えられる。

土壤—Iは、短辺2m50cm、長辺4m20cm、深さ42cmの方形の土壤である。出土遺物がなく明確な時期は不明である。

その他、約20cm～40cmの柱穴も検出された。これらの柱穴は溝-IIより東側において密に検出した。



## 郡 遺 跡 (I)

1. 遺 跡 名 郡遺跡
2. 調 査 地 茨木市五日市線  
町34-3他
3. 調査年月日 昭和60年9月24  
日～10月15日
4. 調査面積 300m<sup>2</sup>

### 経 過

上記調査地において、荒神康雄氏がビジネスホテル建設を計画され、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が郡遺跡内に位置しているため発掘調査を行ったが、この敷地は以前に建物があったことから、地層の搅乱が著しく調査の範囲は、300 m<sup>2</sup>のみであった。

### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、上から盛土・耕土・床土、その下に約10cmの褐色土層である包含層、その下が黄色粘土層の地山となっている。

包含層からは、弥生時代中期～奈良時代の遺物が出土している。

遺構は、調査地を東西に横断するようなかたちで幅1m90cm、深さ45cm～50cmの溝—Iを検出したのみであった。

溝—I内の堆積は暗褐色土層及び黄色砂層の二層であった。出土遺物は時期差のあまりない奈良時代の土器が出土した。

この付近は、摂津国鳴下郡衙があったと推定される位置にあたり、その時期の遺構が出土したことにより、関連性を示す資料をえた調査であった。



## 郡 遺 跡 (II)

1. 遺跡名 郡遺跡
2. 調査地 茨木市上穂積二  
丁目60-1
3. 調査年月日 昭和60年7月22  
日～8月10日
4. 調査面積 102m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、西之辻嘉文氏が店舗付事務所建設を計画され、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が郡遺跡内に位置しているため発掘調査を行った。

調査は、幅約3m、長さ約20mのA・B二ヵ所のトレンチを設定して行った。

### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、耕土の下にすぐ厚さ10cmの褐色土層の包含層が検出され、層中から弥生式土器・土師器・須恵器などの土器片の他、瓦片が出土している。その下層が黄色粘土層の地山となっている。

Aトレンチにおいては、円形及び方形の柱穴跡・溝3条(溝-I・II・III)を検出した。柱穴はいずれも奈良時代の掘立柱建物に伴うものである。溝-Iは幅約90cm、深さ47cmの西か東に流れる溝である。溝-IIは途中で終ってしまうが、幅約40cm～70cm、深さ43cmの西か東に流れる溝である。溝-I・II・IIIはいずれも奈良時代の溝である。

Bトレンチにおいては、円形及び方形の柱穴跡・方形周溝墓3基・溝2条(溝-I・IV)を検出した。方形周溝墓-Iは一辺が2m50cm以上の長さである。方形周溝墓-IIは一辺が6m20cm以上の長さである。方形周溝墓-IIIは一辺が5m30cm以上の長さである。方形周溝墓-I・II・IIIはいずれも弥生時代中期(畿内第Ⅲ様式)の時期である。溝-Iは西か東へ流れる幅60cm、深さ40cmの溝である。この溝は、Aトレンチの溝-IIIと同一の溝である。溝-IVは幅1m10cm、深さ41cmの西南から北東に流れる溝である。溝の時期は奈良時代である。



## 東奈良遺跡

1. 遺跡名 東奈良遺跡
2. 調査地 茨木市小川町  
550-3
3. 調査年月日 昭和60年11月11  
日～11月30日
4. 調査面積 421m<sup>2</sup>

### 経過

上記調査地において、古川義清氏が共同住宅建設を計画され、工事に先だって埋蔵文化財に対する事前協議書が教育委員会に提出された。

教育委員会では、計画地が東奈良遺跡内に位置しているため発掘調査を実施した。



### 遺構・遺物

調査地の基本層位は、耕土及び床土の下に厚さ約40cmの無遺物層が堆積しており、その下層に暗褐色土層の包含層が厚さ約30cm堆積している。

調査地区の東側は、約8mの幅で旧小川水路の流路により遺構面が削平されているため、調査区全体が東へいくにしたがい深くなっている。

方形周溝墓-Iは、東南の一辺が10m 20cm、南北の一辺が4m以上の長さである。内部に主体部とおもわれる土壙-I・II・IIIを検出した。土壙-Iは短辺1m 30cm、長辺2m 70cm、深さ24cmの方形の土壙である。底面が平坦になされているのでおそらく木棺墓であったと考えられるが、棺材は残っていないかった。土壙-IIは、土壙-IIIによって東側は切られているが、一辺が1m以上の方形の土壙である。底面は平坦であり、この土壙も木棺墓であったと考えられる。土壙-IIIは短辺1m 10cm、長辺2m 30cm以上、深さ17cmの方形の土壙である。土壙の南底面が一部深くなっており、また他の底面が平坦であるので木棺

墓であったと考えられるが、その形は南底面に小口板を直接埋め込んだものであると思われる。

方形周溝墓—Ⅱは、短辺 6 m 50cm、長辺 5 m 20cm以上の規模をもつものであるが、方形周溝墓—Ⅰのように主体部を検出することは出来なかった。

方形周溝墓—Ⅲは、一辺が 2 m 50cm以上の規模をもつものである。

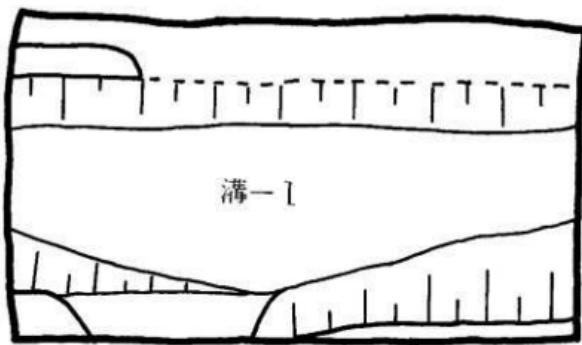
方形周溝墓—Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはいずれも溝を共有したかたちで検出した。方形周溝墓—Ⅰ・Ⅱを共有する溝の部分においては、各々の溝が別々に掘られているため、その境のところが長い島状として残っている。

溝内より検出した土器は、壺・甕および水差形土器がみられるが、いずれも底部あるいは体部に穿孔が認められる。時期は弥生時代中期（畿内第Ⅲ様式）である。

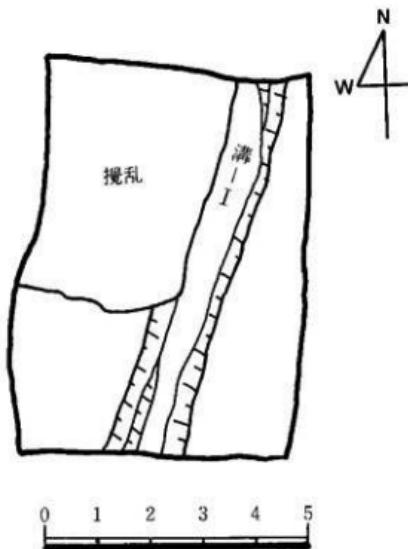
今回調査した地区は東奈良遺跡の北端部に位置しており、この地域において方形周溝墓が群をなして形成しているのではなかろうかと考えられる。

# 図 版

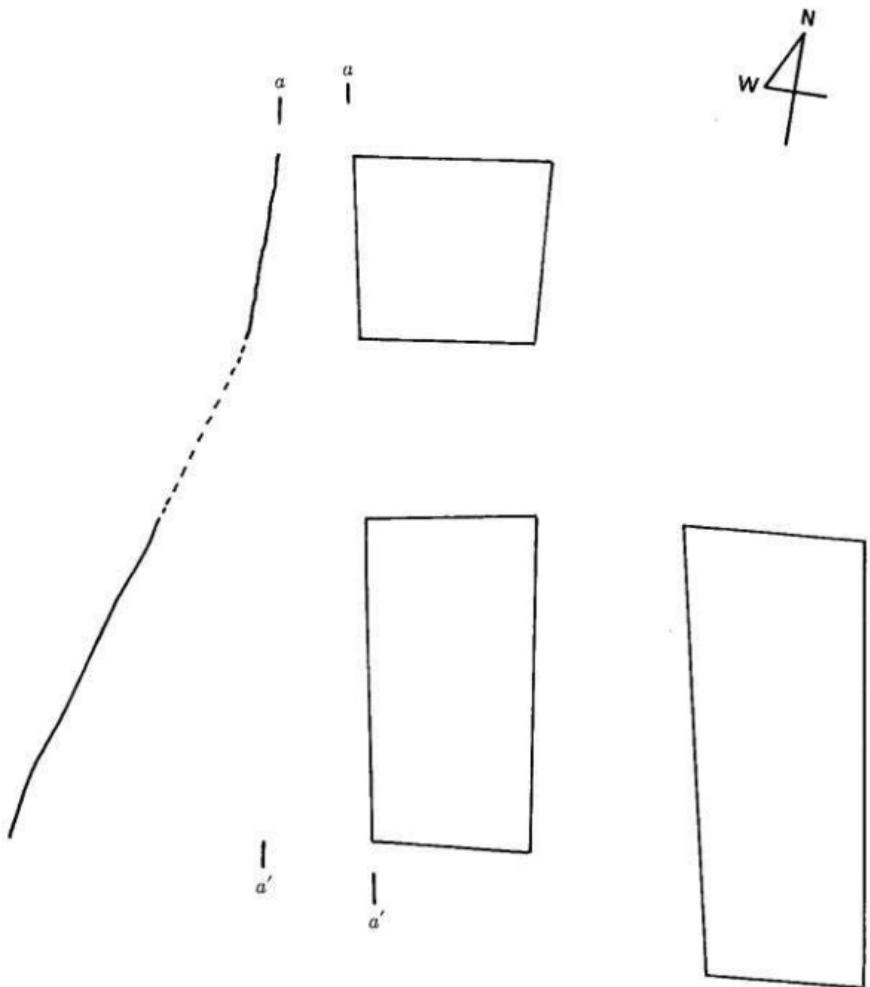




宿久庄遺跡 (I)

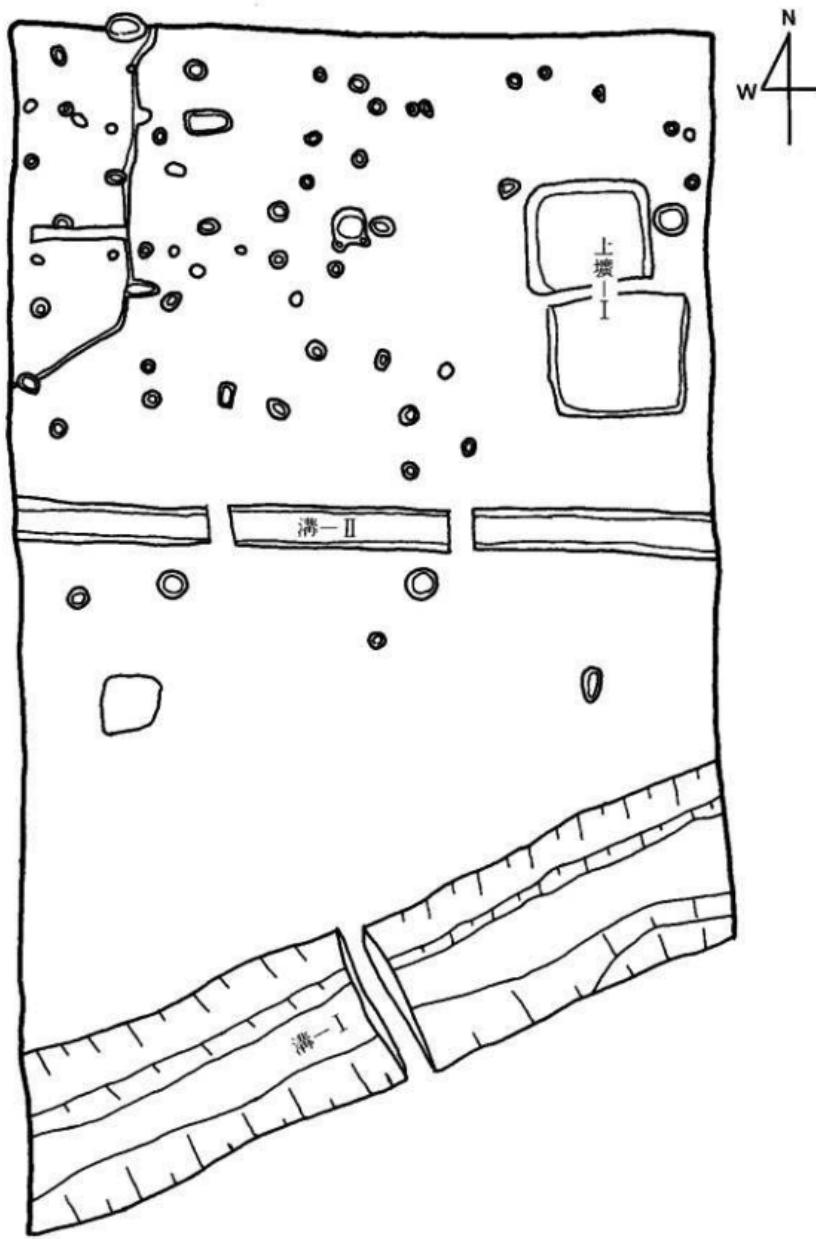


春日遺跡 (I)

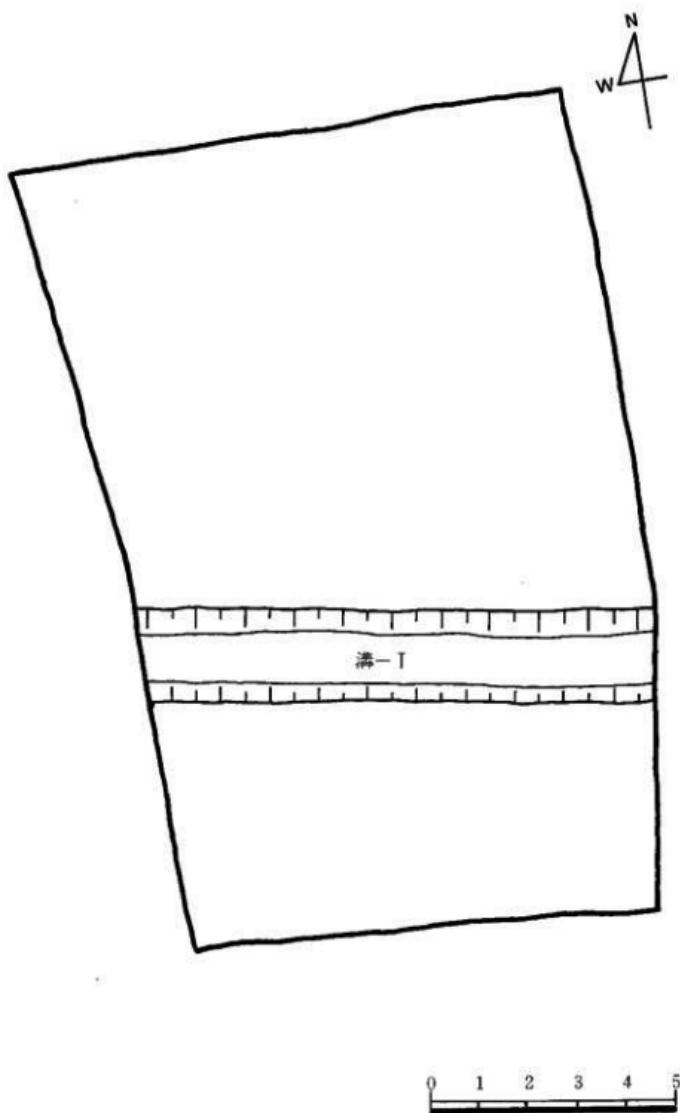


1/100

宿久庄遺跡 (II)

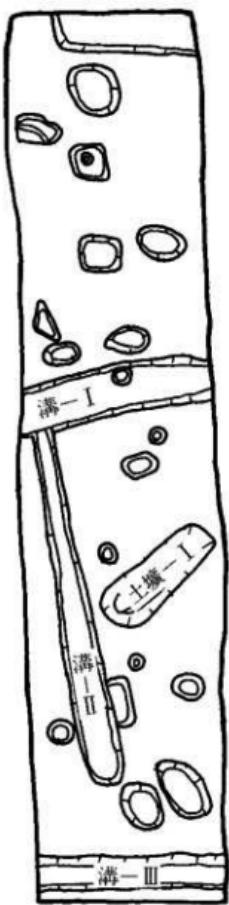


春日遺跡（II）

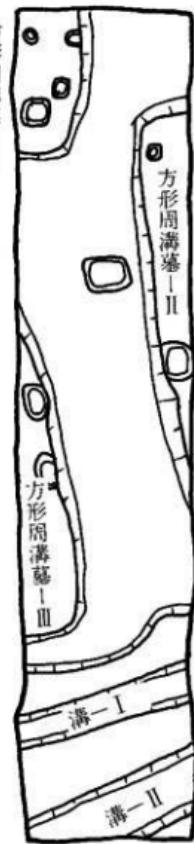


郡遺跡 (I)

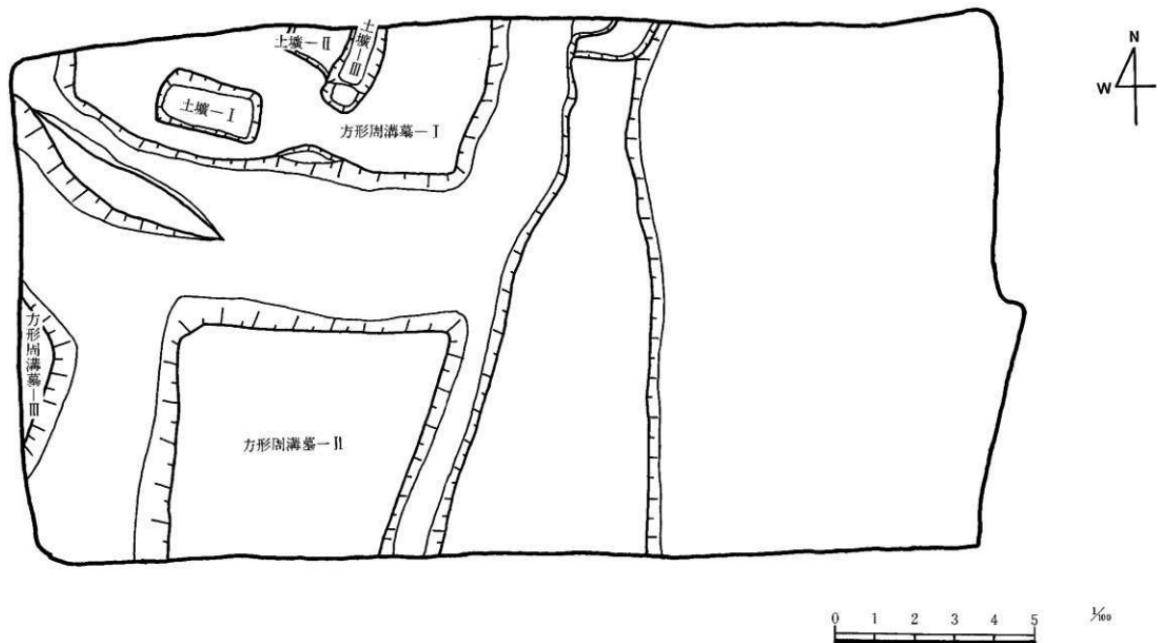
N  
W 4



A トレンチ



B トレンチ



東奈良遺跡



宿久庄遺跡（I）



宿久庄遺跡（I）



春日遺跡（I）



春日遺跡（I）



郡遺跡（I）



郡遺跡（I）



郡遺跡（II）



郡遺跡（II）



東奈良遺跡



東奈良遺跡



東奈良遺跡



東奈良遺跡



東奈良遺跡



東奈良遺跡

## **昭和60年度発掘調査略報**

昭和61年3月29日

発行 茨木市教育委員会

印刷所 政和印刷株式会社